

令和3年1月28日

保護者の皆様

枚方市立杉中学校
校長 岩木 宏樹

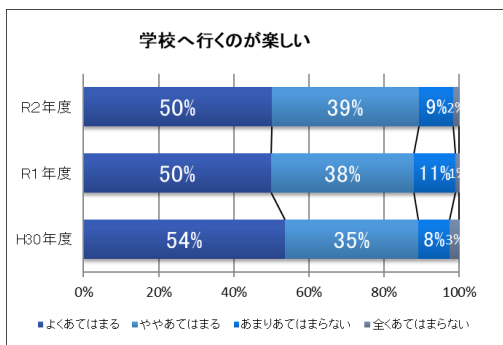
令和2年度学校教育自己診断の結果のお知らせ

大寒の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。

さて、12月にご協力いただきました学校教育自己診断の結果および、その分析についてお知らせいたします。今回の診断結果や昨年度までの結果を基に、これからの学校運営や生徒の学習指導等に生かして参りますので、今後ともご協力、よろしくお願いいたします。

- ① アンケート回収率 生徒 86.4%(708名/819名)、保護者 72.5%(594名/819名)
- ② 結果の概要と分析 ※棒グラフ(横)が経年比較、(縦)が本年度初めての質問項目です。(1~4はそれぞれ1「あてはまる」2「ややあてはまる」3「あまりあてはまらない」4「あてはまらない」)

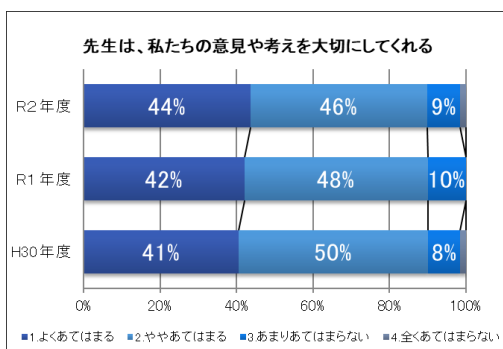
I. 生徒アンケートより



今年度の学校経営目標の一つとして掲げている「めざす生徒像」は以下の通りです。

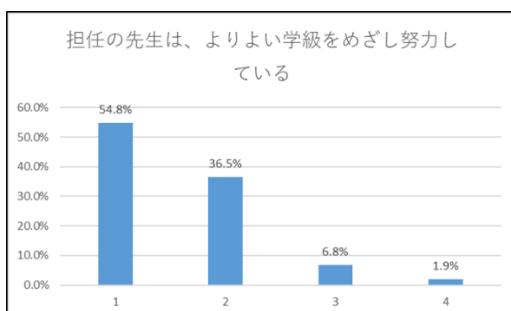
【めざす生徒像】

- (1) 感性と創造力豊かな、自ら学ぶ意欲を持つ生徒
 - (2) 自他を大切にし、思いやりと感謝の心を持つ生徒
 - (3) 心身ともに健康で、たくましい生徒
- 人を思い遣る、何事にも努力をする、感謝の心を持つ等、当たり前なことを当たり前に行える生徒。

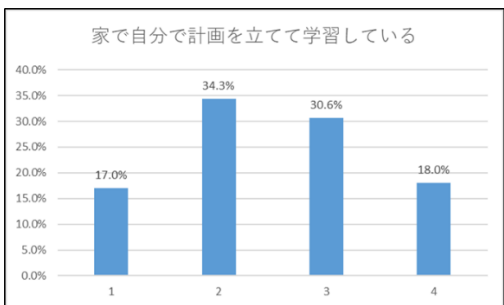
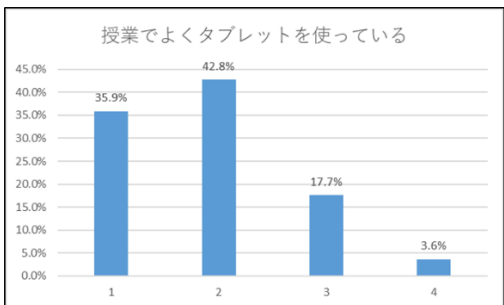
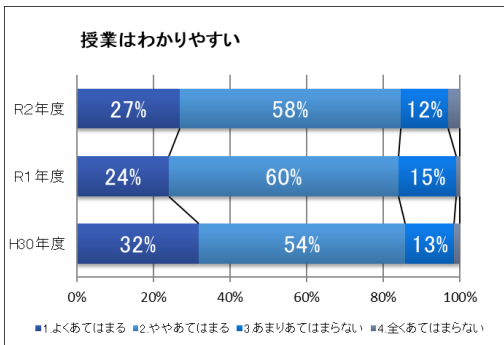
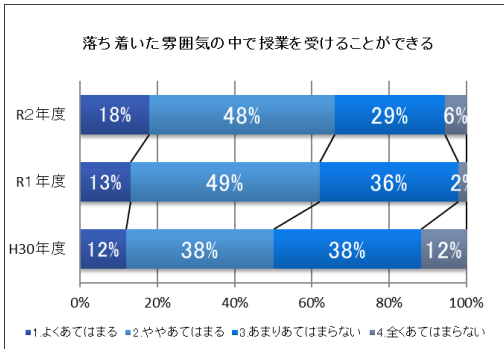
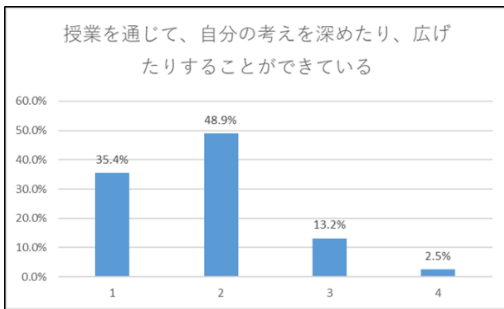


生徒一人ひとりにきちんと寄り添い、このような生徒たちの育成を目指しております。

そこで「学校へ行くのが楽しい」の回答結果が、例年学校では大きな注目点の一つになるわけですが、今年度も、9割の生徒が肯定的な回答でした。「先生は、私たちの意見や考えを大切にしてくれる」「担任の先生は、よりよい学級をめざし努力している」の質問でも、9割の生徒が肯定的な回答をしていました。



生徒たちに評価されている学校の施策や教員の取り組みをより丁寧に行いながら、否定的回答の生徒たちへの取り組みについて、これからも日々改善を図っていきたいと思います。

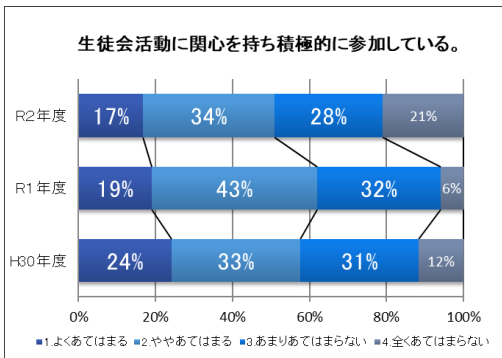
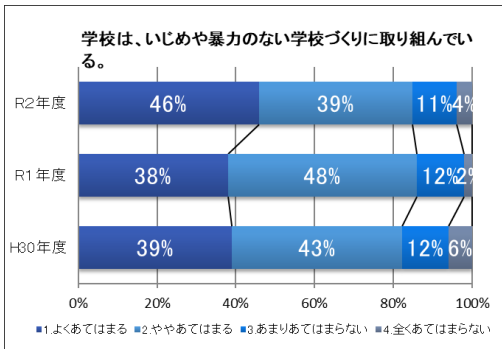
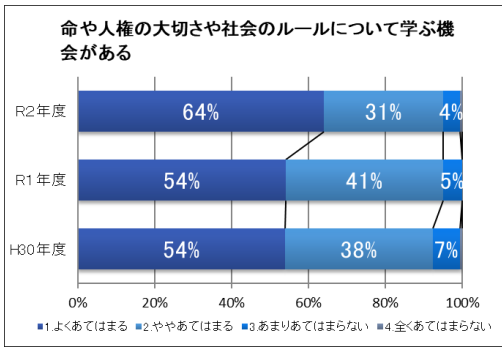


次に、授業について報告します。

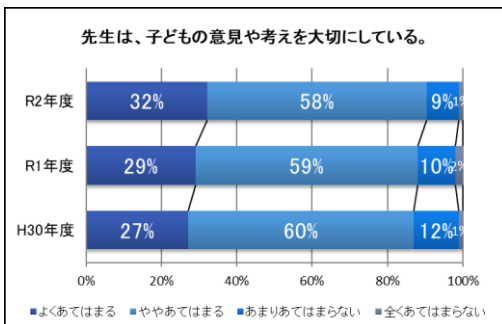
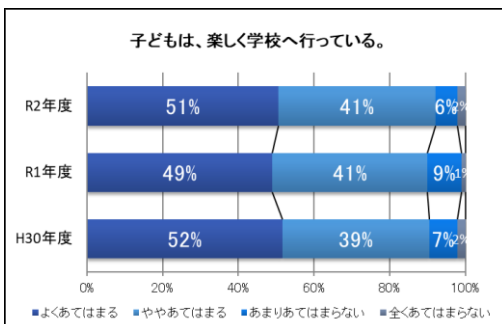
本校では、「協同学習」と「ICT の活用」を授業に取り入れ、授業改善を図っています。協同学習とは、グループワークの形を基本として、教科の学習を通して、学び方や他者とのつながり方を育成する学習スタイルです。「教師に教わる」のではなく「自ら学ぶ」ことを重点としており、学習に対して主体性が育まれることで、学習理解が進むという狙いです。昨年度の秋から校内における研究・実践を進めておりますが、実際に教室を見学していくと、生徒たちの学習に取り組む姿勢が良くなっているのが見えます。「授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる」それぞれのグラフでは、そのあたりの様子を数値で確認することができます。ただし、「授業はわかりやすい」の質問において、肯定的回答割合は高いものの、「あてはまる」の割合は期待値に及びませんでした。生徒たち自身の力で学びに向かい、高いレベルで「理解できた」と実感できる授業にするために、これからも研究と改善を進めていきます。

続いて、ICT 活用と家庭学習について報告します。昨年の 12 月に全生徒へのタブレット貸与が完了しました。貸与完了時期と本調査の実施時期の関係で、タブレット関連の回答は3年生のみですが、現在多くの授業で、タブレットをはじめ ICT 機器を活用しています。左の「授業でよくタブレットを使っている」の数値でも 80% 近くの生徒が活用を実感しています。グラフの掲載はありませんが、「授業でもっとタブレットを使いたい」という質問でも、70% の生徒が「もっと使いたい」と回答しており、タブレット・ICT 機器の活用についても今後一層活性化を図る予定です。

ただし、「家庭学習でよくタブレットを使っている」という質問では、該当する生徒はおよそ 35% ほどです。また、左記グラフの通り、「自身で計画を立てて学習している」と言える生徒は、およそ 50% です。タブレットドリルをはじめとした家庭学習向けコンテンツは、一人で勉強しやすいものになっています。「目標達成のための家庭学習の重要性」と「そのためのタブレットの有効性」については、今後も生徒たちに発信していきたいと思っております。



Ⅱ. 保護者アンケートより



次は、勉強以外の観点において報告します。杉中学校では以前から道徳に力を入れております。当然、左のグラフにあるような「命、人権、いじめ、仲間」などは授業で何度も触れる内容です。生徒指導の面でも、毎学期いじめについてのアンケートを実施し、生徒に寄り添うための情報・根拠にするとともに、生徒指導通信「進木」を定期的に発行し、生徒の育成について情報提供を続けています。

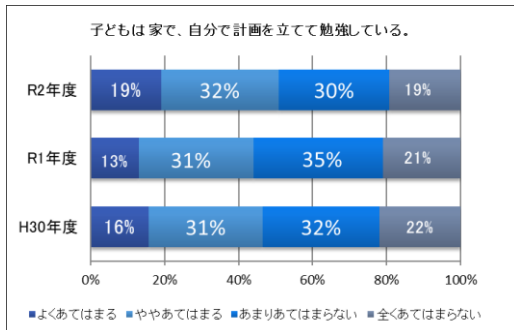
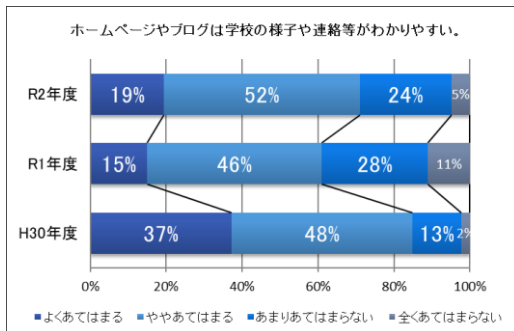
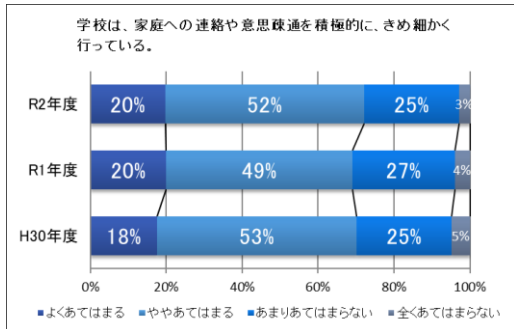
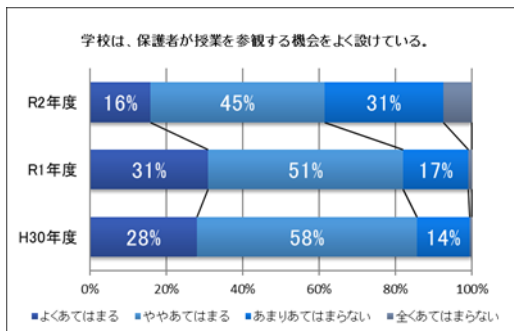
この取り組みは、過去数年続けており、今年度新たに始めたことではないのですが、「よくあてはまる」の数値が、左の2つのグラフでそれぞれ10ポイント前後上がりました。自分たちでボランティア活動を校内で始めようと企画している生徒もいます。

このポイントには、学校の取り組みではなく、その受け手である生徒たちの受け止め方が向上したことを、表しているのかもしれませんが。

前述しましたが、本校のめざす生徒像に
 (1)感性と創造力豊かな、自ら学ぶ意欲を持つ生徒
 (2)自他を大切にし、思いやりと感謝の心を持つ生徒
 があります。生徒たちには成長を自ら実感できる機会を多く設け、自信をつけてほしいと思います。そして、より生徒が主体性を持ち、自ら生徒会活動など、生徒の自主的行動を盛り上げていってくれることを願います。

「子どもは、楽しく学校へ行っている」、「先生は、子どもの意見や考えを大切にしている」の回答では、生徒アンケートにおける同様の質問とほぼ同じ9割の肯定的意見をいただくことができました。その中でも後者の「子どもの意見や考えを大切にしている」という回答で、生徒・保護者の皆さまの回答それぞれで、毎年「よくあてはまる」の数値を伸ばせていることは、我々にとりましても、大変喜ばしく、ありがたいことです。

今後も教員がルールを敷き、その上をはみ出さず進ませるような指導ではなく、生徒の「どうしたいのか」「どうしたかったのか」を大切にす姿勢を示し、生徒に寄り添った指導を続けていきたいと思ひます。



ここからは、否定的な回答の割合が多く、課題として改善を図っていく点について報告します。「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」については、コロナ感染防止の観点から結局、いろいろな行事において、保護者の皆さまに参観を自粛いただく形を取らざるをえない1年間でした。以前の生活ができるようになるまでは、色々なアイデアを検討するとともに、保護者の皆さまにもご協力いただかねばならないと思います。よろしくお願いします。

次に、「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている」「ホームページやブログは学校の様子や連絡等がわかりやすい」の2点をはじめとした情報伝達についてです。ホームページにつきましては、昨年度の学校教育自己診断での数値が良くなかったため、今年度は重点としておりました。取り組みの結果、肯定的意見が10ポイント向上し、ひとまずの成果だったと思います。さらに今後は、すでに通知済みではありますが、学校からの色々な案内をホームページやメルメールなどの媒体で発信し、スマートフォンなどでお手軽にご覧いただけるようにしていきます。

最後に家庭学習についてです。こちら昨年度、課題とした点で、肯定的意見は7ポイント向上しました。昨年度記載しました通り、単純に宿題を増やすなどではなく、生徒の自主性に訴えかけながらの形で、成果が出てきたことについては、喜ばしいことです。「自分の目標のために、自ら努力する」という当たり前のことが生徒全員できるように、これからも取り組みを継続していきます。ご家庭でも「努力を見つけては褒める」ような支援をよろしくお願いします。

③ おわりに

貴重な時間を割いて、本校の教育にご意見を寄せていただきありがとうございました。いただいたご意見は今後の学校経営改善に活用してまいります。なお、回答結果すべてのグラフを本校ホームページにアップしています。こちらもお覧下さい。また、個別に文章表記をいただいたご意見につきましては、全学年分を全教職員が情報共有するとともに、今後の教育活動の参考とさせて頂き、可能な限り学校運営に反映させてまいります。

急速に発展して行く社会の中で、本当に誰も体験したことの無い未来が待っています。そんなこれからの社会を生き抜く子どもたちを、たくましく育てていくには学校とご家庭の協力は必須です。どうぞ今後ともご協力をお願いいたします。